

桑名市民大学講座 『スタイル・生き方の』

ソーシャル・アーキテクト

— 社会を変える 生き方の“スタイル”—

2004年11月11日

中村 裕司

“スタイル”とは何か？

生き方のスタイル

1. (外観・形・造りなどの) 特定の種類、型[type]

2. (行為・運動・競技などの) やり方、方法、仕方[mode]

3. 上品・上流・豪華な生活様式・暮らしぶり

4. (服などの) 流行型

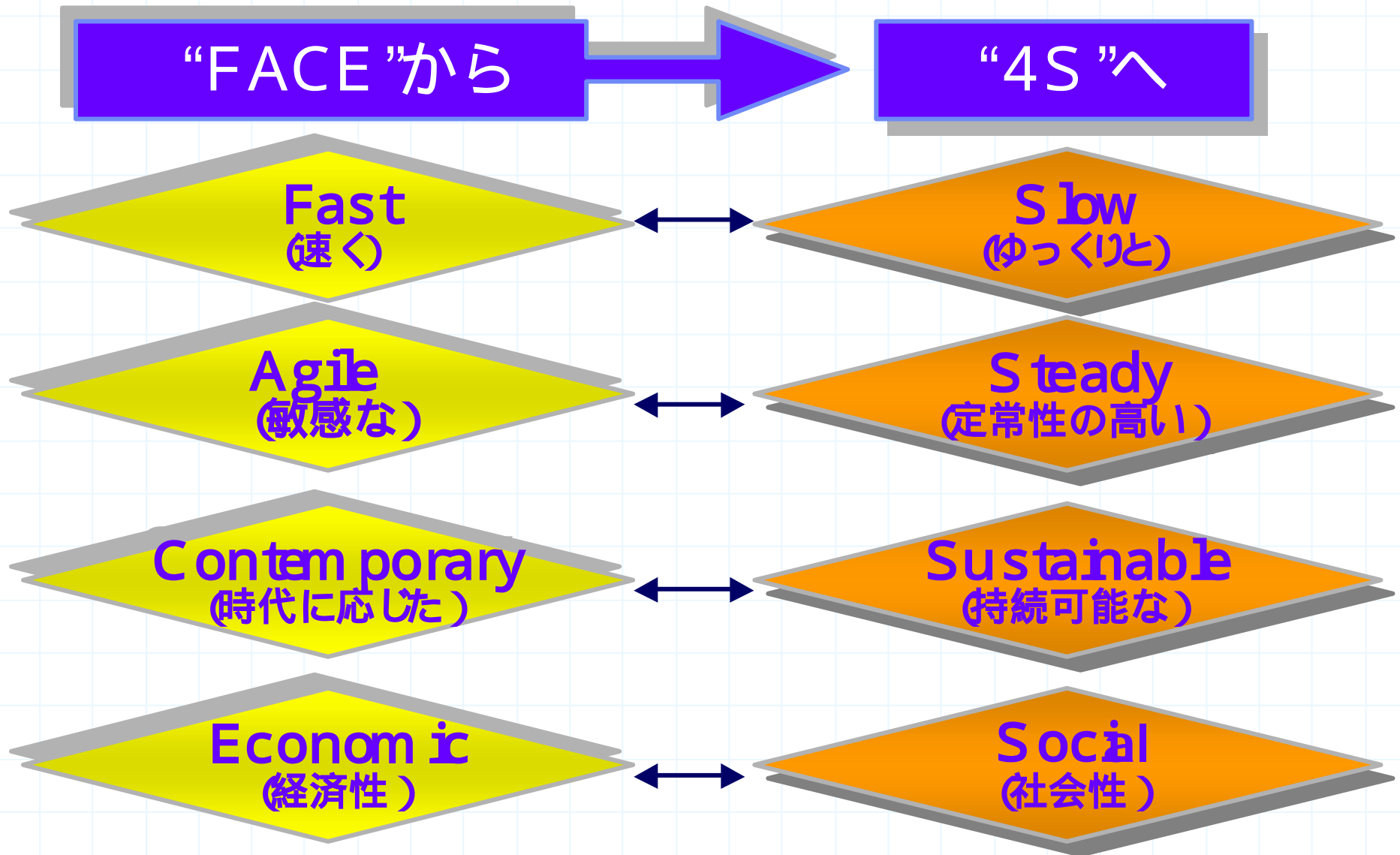
5. 品位、品格、上品さ[elegance]

6. (芸術の) 流儀、風、芸術性

旺文社 『Comprehensive English-Japanese Dictionary』

社会のスタイルが変わってきた

生き方のスタイル



価値のスタイルも変わってきた

生き方のスタイル

高度成長期
(1960年代 ~ 90年代)

モア&モア

エゴ

競争

排除

対立

安定成長期
(90年代 ~ 現在)

ギブ&ギブ

エコ

協調

共生

互助

ライフスタイル創造者が増えている

生き方のスタイル

“良識のある消費”の担い手

・エコロジー、地球環境に強い
関心を持つ

・人間関係、平和、社会正義、
自己実現を大事にする

- 自然に接する旅行が好き
- 遺伝子組み換え食品を避ける
- ごみをたくさん出さない
- ヨガに凝っている
- 漢方を愛用している

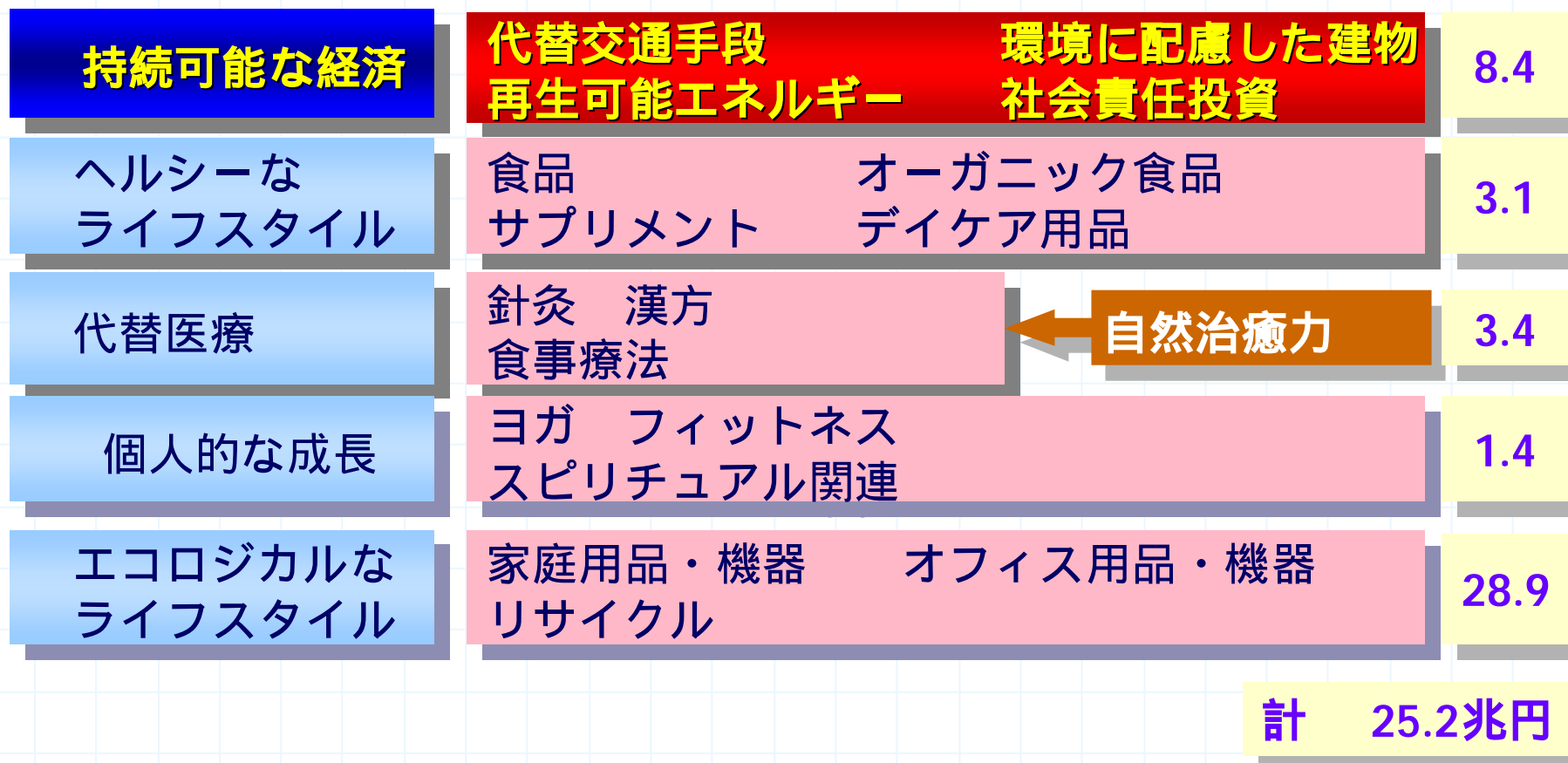
米国には
7,000万人

LOHAS市場は膨張中

生き方のスタイル

Lifestyles of Health and Sustainability

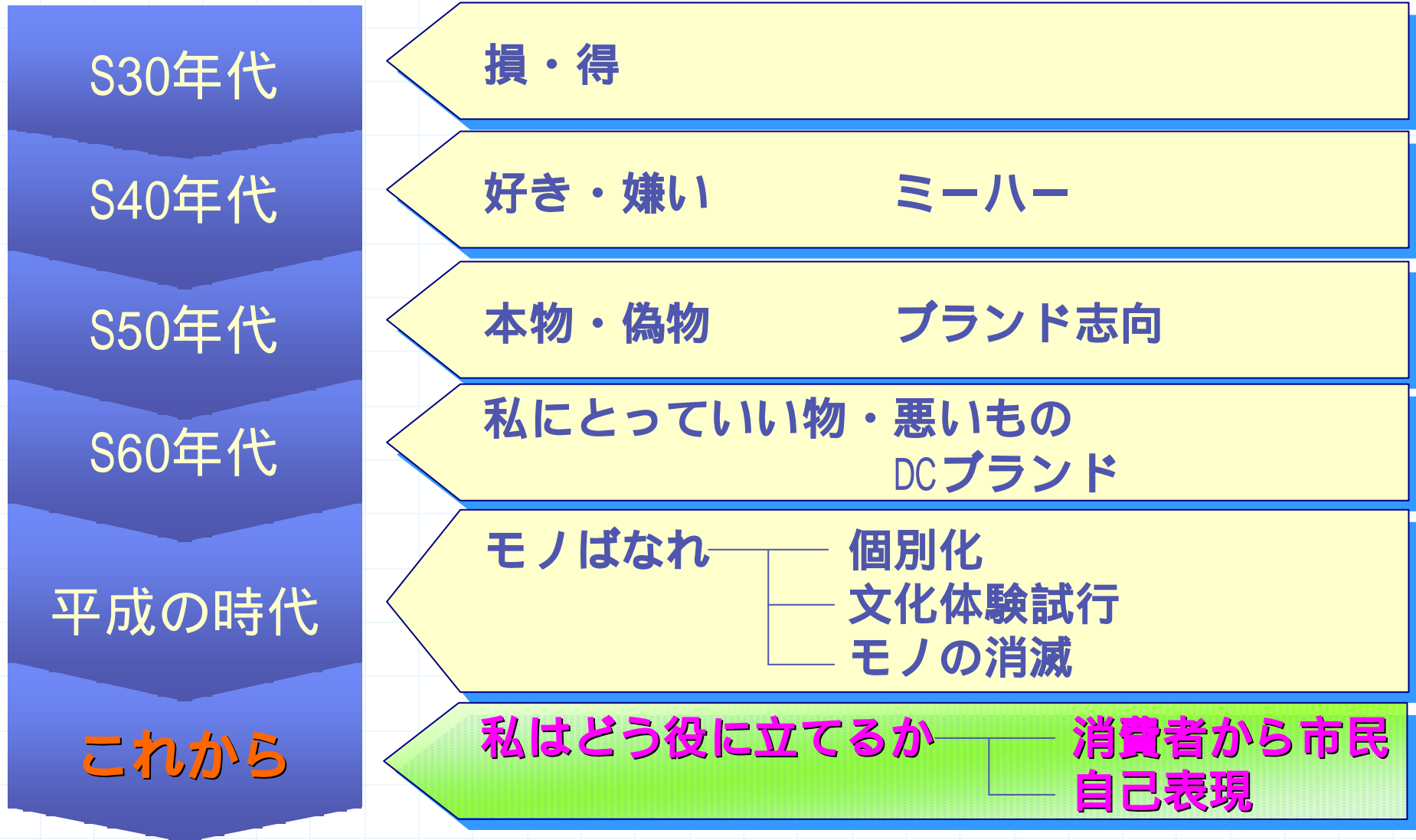
兆円



(2003年3月 『LOHAS Journal』)

社会と市場の変化

生き方のスタイル



国」のカタチ

社会のスタイル

スタイル (かたち)

来し方

行く末

公

「官民」二分法

「官民共」三分法

国

国家中心

国民中心

地域

平均・一律・共通

個別・場合分け

社会

国民社会

市民社会

公共サービス

官製サービス

社会 (市民) サービス

参加

住民慰撫

住民決定

「地域」のカタチ

社会のスタイル

1 規制緩和

補助施設の転用
リニューアル債

2 地方分権

税源委譲

3 中央 地方

市町村推奨ルール

4 官 民

PPP

5 資産価値 利用価値

施設転用

事業再生

空間再生

社会再生

「まち」のカタチ

社会のスタイル

町内会型 (地域サービス)

販売 + 催事・仕出し相談
高齢者への宅配・通院予約
福祉NPOとの協働

都市リゾート型 (時間消費型)

飲食・遊びの充実
心が癒される空間
地域景観・資源の活用

文化遊園地型 (物見遊山)

名所(街並)・名物
ミニテーマパーク
中高年リピーター客

若者ストリート型

B級ファッションストリート
街ブランド

これからの自治体

あるべき姿

社会のスタイル

	こしかた（来し方）	ゆくすえ（行く末）
時代の風	グローバル化 国民国家 中央集権	ボーダレス化 (国際機構+)地域社会 地方分権
社会資本	施設資本 ↓ インフラ整備	コミュニティ資本 ↓ 人間のきずな
「公」の範囲	「官」	「官」+「民」
自治体	国の下請	「民」の調和
地域	生産の場	生活の場
都市計画	まちづくり	まちはぐくみ

コミュニティ資本 (1)

住みよいまち

社会のスタイル

自然環境

空気・海・川・山 緑
気候・風土・日当たり

利便性

買い物・まちの賑わい
公共交通・ゴミ収集・下水道

安全 安心

静けさ・公害の少なさ
災害への備え・風紀
子供の遊び場・女性の夜の一人歩き

生活支援

病院の便・教育(機会と質)
子育て 介護
ハンディキャッパー支援

職と住

働く場・住宅の質
職と住の距離

生活文化

文化・リクレーション施設・交流の場
生涯学習・伝統行事・人情
地域イメージ・街並みの美しさ

コミュニティ資本 (2) 地域の財産

社会のスタイル

資産分類	私有		公有 共有	資本分類
	個人的	公共的		
有形	土地		自然環境	自然資本
	所得	企業 (生産と労働の場) 所得水準・失業率		
	住宅	商店・にぎわい 街並みの美しさ 鉄道・バス 病院 学校 電力	道路・上下水道・学校 文化施設・公園・運動施設	施設資本
制度		銀行・マスメディア 電話 宅配便	教育・医療・警察・司法・郵便 保育 介護 子育て 生涯学習	制度資本
	健康	衛生状態		
無形	友達 信用	近所づきあい・近隣扶助・コミュニティ PTA		関係資本
	技能 学歴 道徳心 意欲 趣味	伝統行事・伝統文化 民主意識・参加の志・教育・スポーツ意欲 治安・風紀・お国柄・気風・地域イメージ		文化資本

コミュニティ資本 (3) 自治体の真の資本

社会のスタイル

	これまでの社会資本	これからの社会資本
範囲	狭い	広い
定義	インフラ整備	人間のきずな
分類	<p>1. 産業関連社会資本 道路 港湾 農村道 工業用水</p> <p>2. 生活関連社会資本 住宅 公園 上下水道 学校</p>	<p>1. 自然資本 : 自然環境</p> <p>2. 施設資本 : 公共施設、インフラストラクチャ</p> <p>3. 制度資本 : システム 教育、医療、警察、司法、郵便 支援 保育、介護、子育て、生涯学習</p> <p>4. 関係資本 : 「人々が互いに協調する能力」 信頼 近所づきあい、近隣助け合い、サークル、PTA、町内会</p> <p>5. 文化資本 : 社交、職業、学校、文化活動等において 持っている文化的有利さの大小」 知識、文化財、言語能力、習慣、ものの見方</p>
行政目標	経済的ゆたかさ モノ	ココロのゆたかさ 関係

「共」の創発 (1) 中間集団の再発見

「公」のスタイル

ボランティア・NPOの台頭 → 官による「公共」独占の終了
→ NPO・民営化による「官」への侵食

NPOの分類

公益

公益法人、学校法人、医療法人、社会福祉法人
独立行政法人 → 行政の内部効率性

市民活動団体、ボランティア

相互扶助団体 (サークル、地縁)

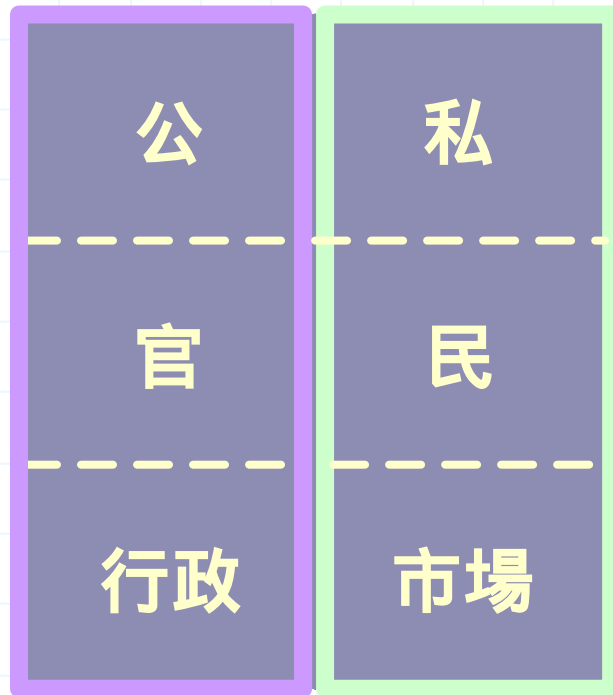
宗教団体、宗教法人

「公共」への参画

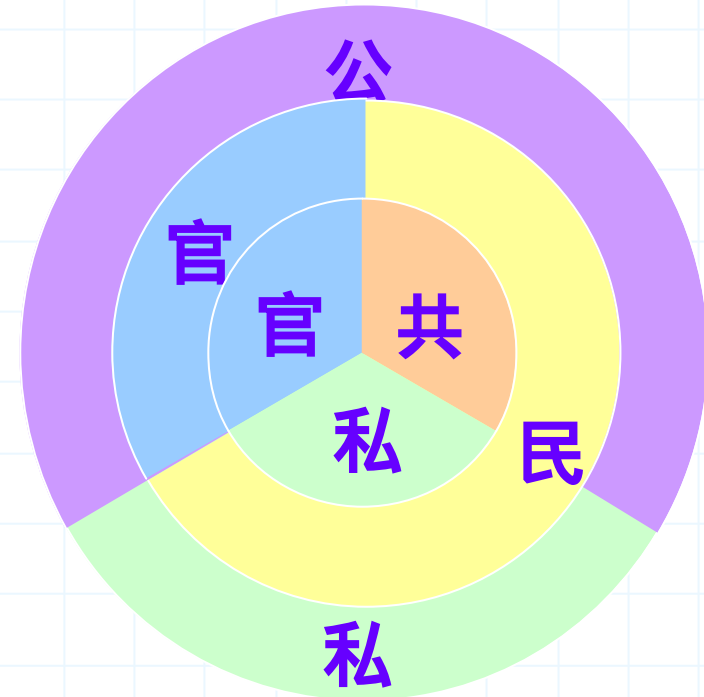
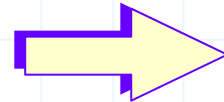
共益

「共」の創発 (2) 官・共・私三元論

「公」のスタイル



<< 公私二元論 >>



<< 官共私三元論 >>

「共」の創発 (3)

「共」の定義

「公」のスタイル

分野	公		私
	官	共	
行政	官	民	民
目的	公共の福祉	公益 or 共益	私益
自由度	強制	自発	自発
対価	無償 (税)	無償 or 有償	有償

「共」の創発 (4) 自治体の原点回帰

「公」のスタイル

自治体 = NPO + 地縁団体 + サークル + 市役所

公

共

官

- 1 「共」機能
安心・生きがいの提供、困ったときの相談
社会の統合
様々な団体との連携
- 2 「官」機能
最も住民に近い官
帰属先を見出せない人のセイフティ・ネット

ガバナンス改革

「官」+「共」協同組織化原理の設計

「公」のスタイル



「市民」とは誰か？

市民という生き方のスタイル

市民とは

社会が政治化されるのを防ぐ者

権力者の行動を批判的にチェックする者

(以上 ウォルブレン著 『人間を幸福にしない日本というシステム』)

規範意識をもって実在している人々

「国家」と「市場」の両方に背を向ける者

(国家という権力「からも、経済という商品関係「からも自立)

日常の中の「私」にしがみついて生きているだけではない者

(以上 坂本義和 『相対主義の時代』(世界「1997年1月号))

市民]概念のインプリケーション

市民という生き方のスタイル

1. 職業 生活の場をもっている。私的」関心から出発し、
国や自治体に 私的」な権利や利益を主張

2. 同時に、ある共通な問題に関心をもち、横の連帯」ができる

3. この関心は、国や自治体に批判的 (反国家主義的)

4. 日本では 市民」が未成熟 (お上絶対」の権威主義)

説明責任や透明性を要求しはじめたふつうの人々

市民という生き方のスタイル

関心の対象

食卓上の食べ物

包装紙

粗大ゴミ(電化製品)

シャツ・ジーンズ

預金

郵貯

発する疑問

・どんな農薬が？ ・成長ホルモン剤は？
・遺伝子組み換え食品では？

・どこの国(地域)の森の木？

・リサイクルされるの？

・どこの国のどんな工場？ ・児童労働では？
・低賃金・長時間労働の結果では？

・不正企業に投融資されていない？

・不用不急の公共事業に回っていない？
・年金 介護の赤字埋めに回っていない？

「市民」の関心と「社会事業」

市民という生き方のスタイル

社会事業

市民が進める事業

自然再生エネルギー

- ・市民風車 (北海道浜頓別町 2億円)
- ・自然エネルギー学校 (滋賀県新旭町)

グリーン事業

- ・緑の雇用事業 (和歌山県日高郡)
- ・木質バイオマス (岩手県葛巻町)

生態系バランス

- ・“お魚殖やす、植樹運動” (北海道根室管区)
- ・近自然河川工法 (四万十川ほか)

リサイクル

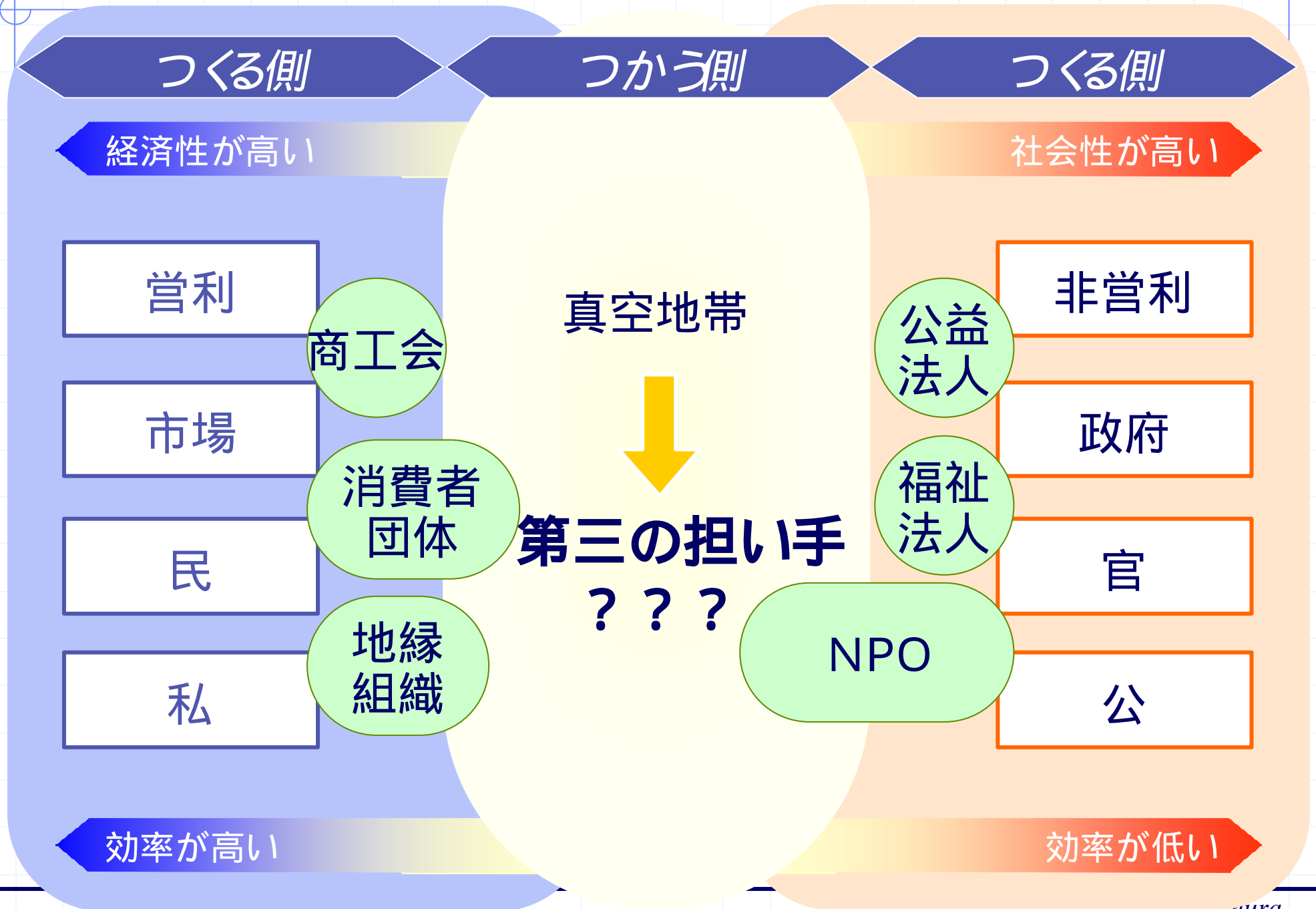
- ・EM浄化法 (沖縄県具志川市)

美しい都市づくり

- ・地方鉄道と路面電車のドッキング (独・ガールスルーエ)
- ・ダム撤去 (米・マディソン)

真空地帯を誰がになう？

新しいスタイルの担い手



ソーシャル・アーキテクトとは？

新しいスタイルの担い手

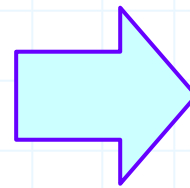
- Social Architect = “社会企業家”
- 「社会をよくしよう」という志の持ち主

没個性

事なかれ主義

ムラ社会

利益至上主義



自分にとって
大切な価値は？

それを守るために
何ができる？

- 1980年代初頭～ イギリス

ソーシャル・アーキテクトのライフスタイル

新しいスタイルの担い手

価値観

働き方」と生き方」が同じ

働く 収入を得る手段
= 自己実現の場

使命感

社会をよくしよう」

活動

社会事業

ソーシャル・アーキテクトを定義する

新しいスタイルの担い手

“営利”と“非営利”の中間事業領域を、
“市場”と“政府”のあいだの中間集団（NPO等）よりも
長けたビジネス・スキルを用い、
社会事業を行っていく

NPOのような企業

企業のようなNPO

ソーシャル・アーキテクト

どんなソーシャル・アーキテクトが可能か？

新しいスタイルの担い手

スタイル

特質

新しいスタイルの企業

社会志向をもっている
地域の課題に取り組む

企業の社会的活動

社会的商品を提供する
社会貢献活動として地域開発する

事業型NPO

社会的活動にビジネス・スタイルを導入するNPO

ソーシャル・アーキテクトの特徴

新しいスタイルの担い手

・地域のニーズに応える

・事業展開上は、ビジネス・スキルが巧みである

・アイデアと創造性にあふれた組織

・「パートナーシップ+ネットワーク」という横のつながりがある

・地域の価値観に根ざした商品やサービスを提供する

・長期的恩恵を優先する・・・環境・人権・社会

社会投資ファンド

新しいスタイルの担い手

